

教育目標：元気で明るい子供 よく考え創造力のある子供 思いやりのある子供 責任を重んずる子供

一年間を振り返って

校長 富永 暢久

昨日は卒業式を、また本日は修了式を無事終えることができました。この一年、子供たちは日々の学習や学級での活動、学校行事等を通して、大きく成長しました。保護者の皆様、地域の皆様にはご支援・ご協力をいただき、ありがとうございました。

以下、今年度の学校経営のご報告をいたします。お目通しいただければ幸いです。

令和6年度 学校経営報告書

【教育目標】

- 元気で明るい子ども
- よく考え創造力のある子ども
- ◎思いやりのある子ども
- 責任を重んずる子ども

【目指す学校像】

- ・子供たちの笑顔があふれ、安心して過ごせる学校
- ・保護者・地域と連携し、心を育てる教育が展開される学校
- ・教職員が子供たちのために生き生きと働く学校

【目指す教職員像】

- ・子供に愛情を注ぎ、厳しさと温かさをもった指導ができる教職員
- ・向上心をもち、切磋琢磨する教職員
- ・保護者・地域と確かな信頼関係を築く教職員

A:よく達成できた B:概ね達成できた
C:もう少し D:達成できなかった

重点項目	具体的な取組目標・予定	自己評価・学校評価	達成度	今後の対策・展望
豊かな人間性の育成	児童に「思いやりの心」を育む道徳教育を計画的に行う。また、異学年交流活動を充実させ、上学年児童には模範となる態度、下学年児童には規範意識を身に付けさせる。	年間を通して、思いやりの心、自他を大切にすることを育む指導を実施してきた。12月の保護者アンケートでの「思いやり」に関する肯定的評価は83%。昨年度の同時期と比べ、6ポイント上昇している。	B	心を育てるには、丁寧かつ計画的な指導を根気よく継続する必要があるため、引き続き計画的な道徳教育及び異学年交流に力を入れていく。
	担任による日々の挨拶指導に加え、「あいさつ運動」を毎月始めに一週間実施し、挨拶に対する意識の向上を図る。また、6年生児童による挨拶キャンペーンを行うことで、6年生児童のリーダーシップを育む。	児童の知らない来校者（保護者・乗客等）に対しては、まだ十分な挨拶ができていないという課題を意識しながら、児童の心を育ててきた。12月の保護者アンケートでの肯定的評価は74%。昨年度の同時期と比べ、10ポイント上昇している。	C	現在の取組が、少しずつではあるが確実に成果を上げているため、引き続き「あいさつ運動」及び「6年生児童による挨拶キャンペーン」を継続実施することで、来校者や地域の方にもしっかりと挨拶ができる児童に育てていく。
	年間を通じた食育指導として「長沼小もったいない運動」を実施する。また、校内の「クリーン活動」を月1回実施し、児童の校内美化への意識を高める。	日々の「長沼小もったいない運動」及び月一回の「クリーン活動」を通して、児童の食品ロスや環境美化に対する意識の向上を図ることができた。12月の教員アンケートでは、ほとんどの学級で「児童に意識の変容が見られる」「成果が出始めている」と回答。	B	次年度も引き続き年度当初より「長沼小もったいない運動」及び「クリーン活動」を実施することで、児童の食品ロスや環境美化に対する意識を一層高めていく。
	長沼公園や浅川など地域の自然を活用した体験活動や、地域の田や畑での農業体験活動を実施し、ふるさと意識の向上を図る。	学区内での自然体験・農業体験活動等を計画どおりに実施するだけでなく、事前指導や事後指導も丁寧に実施した。12月の教員アンケートでは、ほとんどの学級で「地域を大切に思う児童が80%以上」と回答。	B	実際に見たり触れたりできる自然体験及び農業体験活動での学びは大きいため、次年度も継続実施する。また、単なる「体験」で終わらせず、「地域を大切に思う心」を育む指導を合わせて実施する。

重点項目	具体的な取組目標・予定	自己評価・学校評価	達成度	今後の対策・展望
------	-------------	-----------	-----	----------

学力の向上	校内研究で年間3回の研究授業を行うとともに、日々の教材研究を通してわかりやすい授業を行い、学力向上を図る。また、主幹教諭の計画のもと、年間を通して若手教員を育成する。	校内研究や日々の教材研究を通して、わかりやすい授業を心掛けてきた。12月の保護者アンケートでの授業のわかりやすさに関する肯定的評価は85%。また、授業の工夫に関する肯定的評価は88%。	A	基礎学力の定着及び学力の向上に向け、引き続き授業改善に取り組んでいく。また、教員の授業力向上に向け、校内研究及び校内研修を一層充実させる。
	日々の丁寧な指導の実施に加え、学校サポーター、学生ボランティアを活用し、個別指導・支援を充実させ、基礎学力の定着を図る。	基礎学力の定着に向け、丁寧な指導及び個に応じた支援を行ってきた。12月の保護者アンケートでの学力定着に関する肯定的評価は91%。また、授業内容の理解度に関する児童アンケート(4年生以上で実施)では、肯定的評価が89%(実施した7学級の平均値)。	A	児童理解に努め、引き続き丁寧な授業及び個別指導を実施する。また、学校サポーター、学生ボランティアの活用も継続実施することで、きめ細かい支援を行う。
	家庭での学習習慣の確立に向けて「10分×学年」の宿題を毎日出すとともに、家庭学習・生活習慣カード表を活用して家庭学習の定着キャンペーンを実施する。	家庭学習の習慣は、まだ個人差が大きいのが現状である。家庭学習が習慣付いていない児童も2〜3割程度いるため、引き続き家庭と連携して取り組む。12月の保護者アンケートでの家庭学習の習慣に関する肯定的評価は81%。	B	全学年「10分×学年」の宿題については、継続実施する。家庭での学習習慣が身につけていない児童には、個別に支援するとともに保護者と連携しながら、スモールステップで習慣付けを行っていく。
	朝読書(毎朝10分)を実施するとともに、すき間読書を推進する。また、「お話レストラン」や「とんとん昔語り部の会」など、PTAや地域と連携して読書活動を充実させる。	図書の時間に加え、全学級で朝読書及びすき間読書に取り組むことで、12月の教員アンケートでは、ほとんどの学級で「意欲的に読書に取り組む児童が8割以上」と回答。校内研究(国語)及び読書活動の充実により、児童の「読む力」が少しずつ向上してきている。	B	朝読書及びすき間読書を継続し、引き続き毎日活字に親しむ習慣を付ける。また、「お話レストラン」や「とんとん昔語り部の会」も継続実施し、活字が苦手な児童への支援とする。
体力向上と健康の保持増進	体育授業において、自己に適したため学習に取り組ませるとともに、十分な運動量を確保する。また、長沼小元気アップタイムの実施や外遊びの励行を通して、児童の運動量を増やす。	年間を通して運動に親しむための授業改善や休み時間の工夫を行った。また、生活時程の昼休みを5分長設定し、少しでも長く外遊びができるようにした。12月の教員アンケートでは、ほとんどの学級で「体を動かすことを楽しんでいる児童が8割以上」と回答。	B	体育の授業改善及び外遊びの励行を引き続き進めていく。運動への苦手意識をもっている児童に対しては、体育授業で「できる喜び」を味わえるよう、スモールステップでの活動を大切にしている。
	全学級で心のSOSを発信する授業を実施するとともに、児童の些細な変化をとらえ、校内委員会で情報共有を図る。また、3・5年生全児童とスクールカウンセラーの面談を実施する。	一人一人を大切にしたい指導及びスクールカウンセラーの活用等を通じ、児童の心の安定を図ってきた。また、全学級で具体的なSOSの出し方を指導した。12月の保護者アンケートでの「子供は楽しく学校生活を送っているか」との設問に対する肯定的評価は95%。	A	「楽しく学校生活を送っている児童が100%ではない」という現状をとらえ、教員が一層アンテナを高くし、保護者との連携を図りながら引き続き児童一人一人に寄り添った支援を行っていく。
	病気の予防等についての知識を身に付ける保健指導を実施する。また、食事の重要性や楽しさ等を理解させ、健康につながる食育を推進する。	自分の健康に関心をもたせるとともに、病気の予防等についての指導を実施してきた。また、「長沼小もったいない運動」や食育メモ等を通して、食育指導も継続した。12月の保護者アンケートでの「学校は、子供の健康増進や体力向上のための指導を行っているか。」との設問に対する肯定的評価は87%。	A	病気の予防等、児童の健康管理に関する指導・支援は、引き続き日常的に実施していく。また、「長沼小もったいない運動」や「食育メモ」等の食育に関する取り組みも、引き続き年間を通して実施する。
	子供たちの成長を支えるための教職員の「働き方改革」を推進する。	多くの教員が、協働や工夫によって効率よく職務を遂行しようとしている。また、英語講師の配置や高学年の教科担任制により、忙しくなる傾向がある高学年担任の負担を軽減することができた。「月の時間外勤務45時間以内」を達成できている教員が多い。	B	引き続き、子供たちに向き合う時間を確保するための働き方改革を推進するとともに、中学年での教科担任制の実施に向け、開始時期等を検討する。
信頼される学校づくり	一人一人の児童に寄り添った指導を行うとともに、児童の諸問題には、迅速に対応する。また、学校のきまりや学級のきまりについて日常的に指導し、児童の規範意識を高める。	児童の諸問題は、常に早期対応・早期解決を心掛けた。また、全学級で学校のきまり等について指導及び振り返りを実施してきた。12月の教員アンケートでは、全学級で「8割以上の児童がきまりを守っている」と回答。12月の保護者アンケートの肯定的評価は79%。	B	引き続き、児童一人一人に寄り添った指導を行うとともに、児童のトラブルに対しては、その日の解決を目指して対応する。学校のきまり等については、引き続き日常的に指導を行っていく。
	学校だより・学年だより・配信メール等で、学校情報を正確に伝える。また、ホームページを定期的に更新し、学校生活の様子を保護者に発信する。	ホームページ更新やメール配信など、丁寧な情報発信を心掛けた。また、配付文書の多くをデータでの配信とし、保護者に確実に情報が届くようにした。12月の保護者アンケートでの肯定的評価は92%。	A	ホームページ更新やメール配信、配付文書のデータ配信等は、引き続き丁寧に行う。
	子ども見守りシートを活用し、児童が抱える心の問題等に対して早期対応を図る。また、毎週いじめ対策委員会を開催し、いじめの解消に向け組織的に対応する。	年間を通し、全教員が常にいじめ防止を意識し、児童間のトラブルは常に早期解決を図った。そのため、長期にわたるトラブルに発展することはなかった。12月の保護者アンケートでの「いじめのない学校づくり」に関する肯定的評価は77%。	B	いじめの定義に基づき、「いじめはどの学級でも起こりうる」とした上で全教員がアンテナを高くして児童の様子を見守り、早期発見・早期対応に努める。また、見守りシートやアンケート等も継続実施する。
	計画的に安全指導・避難訓練を実施するとともに、地域防災訓練を公開日に実施する。また、交通安全教室、セーフティ教室、情報モラル授業を通して、学年に応じた指導を行う。	計画的に安全に関する指導を実施することができた。また、今年度は地域防災訓練を公開日に実施し、地域の方々が企画した防災訓練に児童が参加できるようにした。12月の保護者アンケートでの安全・安心に関する肯定的評価は95%。	A	児童の安心・安全のため、引き続き計画的に安全指導を実施する。また、地域防災訓練は次年度も公開日に実施し、児童が防災訓練に参加できるようにする。